

## 水戸南高校におけるキャンパスエイド活動報告

Practical report of campus aid activity at Mitominami high school

島田 茂樹・平野 泰博・吉澤佳代子・市村 爽生・  
倉田眞奈美・佐田本京香・近森 優貴・野原 麻美・  
伊藤 昇太・久保田彩葉・田所 詩織・宮久保皓規  
S. Shimada・Y. Hirano・K. Yoshizawa・S. Ichimura・  
M. Kurata・K. Sadamoto・Y. Chikamori・A. Nohara・  
S. Ito・I. Kubota・S. Tadokoro・K. Miyakubo

常磐大学人間科学部紀要

人間科学

第42巻 第1号（2024年9月）抜刷

Printed from *Human Sciences*  
Faculty of Human Sciences, Tokiwa University  
Vol. 42 No. 1, September 2024



## 水戸南高校におけるキャンパスエイド活動報告

島田 茂樹 (常磐大学人間科学部)  
平野 泰博 (茨城県立水戸南高等学校)  
吉澤佳代子 (茨城県立水戸南高等学校)  
市村 爽生 (常磐大学心理学科 4 年)  
倉田真奈美 (常磐大学心理学科 4 年)  
佐田本京香 (常磐大学心理学科 4 年)  
近森 優貴 (常磐大学心理学科 4 年)  
野原 麻美 (常磐大学心理学科 4 年)  
伊藤 昇太 (常磐大学心理学科 3 年)  
久保田彩葉 (常磐大学心理学科 3 年)  
田所 詩織 (常磐大学心理学科 3 年)  
宮久保皓規 (常磐大学心理学科 2 年)

Practical report of campus aid activity at Mitominami high school

Shigeki SHIMADA (*Faculty of Human Sciences, Tokiwa University*)

Yasuhiro HIRANO (*Mitominami Highschool*)

Kayoko YOSHIZAWA (*Mitominami Highschool*)

Sawaki ICHIMURA (*Undergraduate student, Department of Psychology, Tokiwa University*)

Manami KURATA (*Undergraduate student, Department of Psychology, Tokiwa University*)

Kyouka SADAMOTO (*Undergraduate student, Department of Psychology, Tokiwa University*)

Yuuki CHIKAMORI (*Undergraduate student, Department of Psychology, Tokiwa University*)

Asami NOHARA (*Undergraduate student, Department of Psychology, Tokiwa University*)

Shota ITO (*Undergraduate student, Department of Psychology, Tokiwa University*)

Iroha KUBOTA (*Undergraduate student, Department of Psychology, Tokiwa University*)

Shiori TADOKORO (*Undergraduate student, Department of Psychology, Tokiwa University*)

Koki MIYAKUBO (*Undergraduate student, Department of Psychology, Tokiwa University*)

## Abstract

This paper reports a practice of campus aid activity at flex high school in Ibaraki prefecture. Undergraduate, psychology major students engage in campus aid activity, working as a talking partner for students in the flex high school. 9 undergraduate students participated in the campus aid activity in 2023-24 school year. The activity were held 29 times a school year, with a total of 146 high school students visiting the campus aid room. Students enrolled in campus aid talked about a variety of topics in campus aid room, including high school life, studies, games, and career paths. Students talked with high school students, structured appropriate room environment in the aid room, and participated in school counselling meeting.

## はじめに

水戸南高等学校でのキャンパスエイド活動は、2015年より実施されている。その数年前より水戸南高校の相談担当の先生から、本学の大学院生を通して、水戸南高校の生徒の相談相手になってくれる人を紹介してほしいという依頼があり、本学の臨床心理学を専門とする教員がゼミ生や大学院生を紹介していた。その取り組みが高校からも評価されて、県から正式に予算をとって高校生の相談相手を置くことになり、本学も学長と相談して実施することになった（茨城県教育庁高校教育課高校教育改革推進室、2015ab）。

キャンパスエイドの活動内容は、水戸南高校の校長の指揮監督のもとに、①生徒に対する話し相手としての役割で行う支援活動、②学校カウンセリングに係る校内研修会等への参加、③その他、学校カウンセリング活動に関することである。具体的には、①本格的な相談はスクールカウンセラーが担当する、②キャンパスエイドは教職員やスクールカウンセラーの指揮監督のもとにスクールカウンセリングの補助活動を行う、③主に話し合う内容としては、心理・社会面、健康面、進路面、学習面等の分野とする、④話の内容が深刻な場合には相談担当教諭に委ねること、などとなっている。キャンパスエイドには資格要件はなく、①学校カウンセリング及び教育活動に熱意のあるもの、②学生教育研究災害傷害保険及びインターンシップ等賠償責任保険に加入しているものを推薦することとなっている。

ここでは2023年度に実施された水戸南高校におけるキャンパスエイド活動について報告することとする。

## キャンパスエイド活動の概要

キャンパスエイド活動は、2022年度までは水戸南高校の社会人相談員とキャンパスエイドがベアになって、高校の相談室において活動を行ってきた。2022年度末に高校で開催されたキャンパスエイド研修会の際に、大学のコーディネーターである第一著者は、水戸南高校校長である第二著者から2023年度は新しい形態でキャンパスエイド活動を行うことにしたいというお話を受けた。そして2023年度当初に校長が大学を訪れ、2023年度は学生のみでキャンパスエイド活動を実施することに決定したことが伝えられた。

## キャンパスエイド活動に参加する学生の募集

キャンパスエイドに参加する学生は、例年、年度初めに心理学科のゼミナール担当教員がゼミナール学生にキャンパスエイドの募集を案内し、希望学生を募っている。また、大学のコーディネーター教員が担当する授業の中でも希望学生を募っている。2023年度は、新しい取り組みを含めた図1のような案内を作成しキャンパスエイド活動を学生に周知した。募集の結果、2023年度は、4年生5名、3年生3名、2年生1名、計9名の学生がキャンパスエイド活動に参加することになった。

## キャンパスエイド活動の実施期間・実施回数・来室者

キャンパスエイド活動は、2023年6月から2024年1月まで、水・木・金曜日に、原則として10時から14時まで実施された。実施回数は、6月2回、7月5回、9月4回、10月6回、11月6回、12月3回、1月3回の合計29回だった（図2）。来室者は、エイド室利用の延べ人数が146人、実質人数が26人、その

### 水戸南高校キャンパスエイド募集

**キャンパスエイドの活動内容**  
水戸南高校の校長の指揮監督のもと、  
①生徒に対する差し支えのない役割で行う支援活動  
②学校カウンセラーに係る校内研修会等への参加  
③その他、学校カウンセラー活動に関すること

**具体的には、**  
・大学で学んだ専門性を生かしながらフリースペース  
やエイド室でメンタルフレンドとしての活動を行う  
・キャンパスエイドは、社会人相談員（有資格者）と  
ペアになって生徒の支援にあたる。  
・本格的な相談はスクールカウンセラーが担当する。  
・主に話し合う内容としては、心理・社会面、健康面、  
進路面、学習面等の分野とする。  
・話の内容が深刻な場合には相談担当教諭に委ねる、  
となっています。

水戸南高校 水戸市白根2-10-10  
水戸駅南口より徒歩15分

### 水戸南高校キャンパスエイド募集

**キャンパスエイドの要件**  
①学校カウンセラー及び教育活動に熱意のあるもの、  
②学生生活研究実習等修得後及びインターンシップ等  
賠償責任保険に加入しているもの、  
③その他の資格要件はありません。

**活動時間**  
午前10時から午後4時までの間の4時間以上。  
**活動日**  
月曜・水曜・金曜日固定、セメスターでの交換あり（昨年度）。  
（今年度の詳細は高校との協議で決定します）  
**活動報酬**  
1日5,000円、交通費込みの予定です。  
**その他**  
高校で教育相談の研修会が2回、茨城県フレックス  
スクール5校の研修会、県内4大学と高校との茨城県地域  
教育臨床研究会があります。

連絡先：島田茂樹（内線 ）  
Email:

図1 キャンパスエイド募集の案内

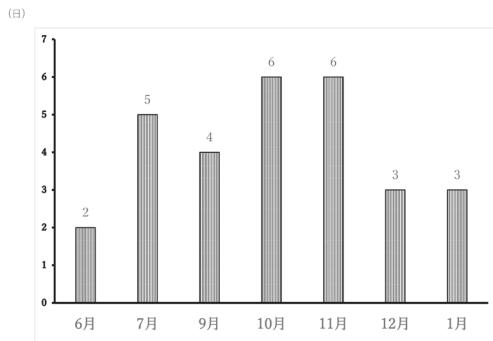


図2 キャンパスエイド室の開室日数

他、来室はしていないが声をかけて話した人数が27人だった。

#### キャンパスエイドの主な活動内容

キャンパスエイドの主な活動内容は、来室した生徒への対応、エイド室の環境整備、校内見学、校内巡回、キャンパスエイドの周知活動、および研修会だった。

来室した生徒への対応では、エイド室に来室した生徒とお話をしたり、カードゲームなどのゲームを通して交流したり、キャンパスエイドが大学生ということで大学進学のことや大学生の生活のことなどを生徒と話をした。生徒との話では、高校生活のこと、勉強のこと、ゲームのこと、日常生活のことなど多岐にわたる内容の話をしていた。

エイド室の環境整備では、エイド室のテーブル、壁面、入り口等の飾りつけをした。エイド室には、四角のテーブルに4つのイスがあり、カードゲームや、けん玉等の小さな遊具が使えるようになっていた。エイド室の入り口や壁面には、キャンパスエイドが、折り紙で飾りつけをしたり、キャラクターを作成したりして壁面作りをした（図3、4、5、6）。また、キャンパスエイドの自己紹介カードを作成してエイド室に掲示した。1日の活動終了後はエイド室を清掃した。生徒への関わりの手がかりになるように、図書室から本を借り出してエイド室に展示して生徒の目に留まるよう



図3 エイド室の外観



図4 エイド室の入口扉の掲示



図5 エイド室のテーブル



図6 エイド室の室内

## 水戸南高校におけるキャンパスエイド活動報告

にした。

校内見学では、授業中に授業中の生徒の行動観察を行なった。校内巡回では、キャンパスエイドが校内にいる時に廊下等で出会う生徒に挨拶したり言葉かけをしたりした。清掃の時間には、エイド室の清掃だけでなく、生徒への言葉かけをしたり、生徒の清掃場所の手伝いをしたりした。昼休みにエイド室に生徒が来室しなかったときには生徒の教室で言葉かけをしたり対話をしたりした。高校が文化祭の準備期間には、文化祭の準備時の巡回や準備のサポートをしながら言葉かけをしたりした。

キャンパスエイドの周知活動では、高校の先生に調整してもらいながら各教室でキャンパスエイドの自己紹介を行なった。

研修会活動では、高校の教職員に対するスクールカウンセラーの研修会に、キャンパスエイドの希望者が参加して研修を行った。そして年度末に開催されたキャンパスエイド協議会に参加して、1年間の活動の振り返りと次年度への課題を討論した。

## キャンパスエイド活動のマネジメント

大学のキャンパスエイドコーディネーターは、Google Classroomに「2023 水戸南高校キャンパスエイド」クラスを開設し、キャンパスエイドはここに教師として登録し、キャンパスエイド活動の情報を共有した（図7参照）。キャンパスエイドの勤務予定は、クラスルームのGoogle スプレッドシートにカレンダーを作成し、各キャンパスエイドが活動可能な日を記入して、活動の前の月の月末までに大学のコーディネーターが勤務日程を調整し、キャンパスエイド全員に周知した。

キャンパスエイド活動に関する情報共有や活動の相談事については、Google Classroom「2023 水戸南高校キャンパスエイド」クラスで対応し、その他月曜日の昼休みの時間帯に大学の教室において対面でミーティングを行なった。2023 年度は対面でのミーティングを2回実施した。

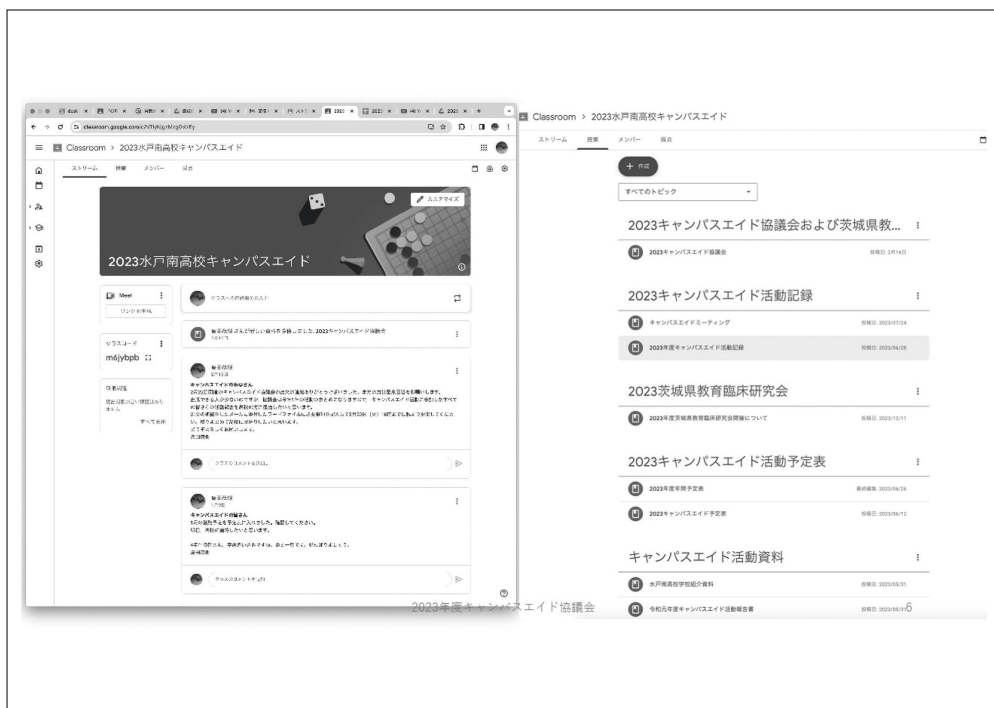


図7 キャンパスエイドのクラスルームの概要

### キャンパスエイド活動の振り返り

キャンパスエイドに参加した学生の参加理由や動機、工夫したことや努力したこと、困ったことや難しいと感じたこと、やればよかったあるいは学んでおけばよかったこと、参加して変わったと思うことについて、キャンパスエイドの振り返りからまとめていく。

キャンパスエイドに参加した学生の参加理由や動機は次のようなことが挙げられた。教育現場での心理的支援に関心があった。以前からキャンパスエイド活動のことは知っていて、支援する立場として高校生と関わることが出来るという点でキャンパスエイドの活動に興味を持っていた。この活動のほかに不登校児童生徒のオンラインによる支援を行っていて、対面の支援活動に興味を持った。大学で学んだ心理学の知識を活かして実際に誰かの役に立つ、心の支えになるという経験をしたいと思った。

工夫したことや努力したこと次のようなものが挙げられた。自己紹介や季節の折り紙を作り生徒が利用しやすいエイド室の環境づくりに努めた。多くの生徒に知ってもらえるように積極的に声かけをおこない、休み時間には看板の位置や、机の配置を工夫した。生徒とすれ違うときやエイド室の近くにいるときにはこちらから挨拶をしたり、声をかけたりした。エイド室で話していると、授業時間に遅れそうになったり、授業に行かずエイド室に残ろうとする生徒もいたため、そこははっきりと授業に参加するよう伝えた。

困ったことや難しいと感じたことは次のようなことが挙げられた。来室する生徒が固定してきた時のどう対応したらよいか困った。新しい生徒がなかなか訪れず、どうしたら多くの人に利用してもらえるか、生徒の利用のきっかけづくりが難しいと思った。来室する生徒にまんべんなく対応するのが難しかった。生徒の話に、内容によってはどう返答してよいか迷った。たとえば、とりわけ過去のいじめの話題や不登校の話題などのような個人的な内容のときは返答に困った。

やればよかったあるいは学んでおけばよかったことは次のようなことが挙げられた。キャンパスエイドから進んで生徒に声をかけたり、交流したりすればよかった。キャンパスエイド内での情報共有や話し合いなどを積極的に行えばよかった。初めに、話しかけ方や

話の聞き方など実践的な研修を受けておけばよかった。

参加して変わったと思うことは次のようなことが挙げられた。さまざまな背景を持つ生徒がいることへの理解や関わり方についての考え方が変わったと思う。活動前より自分自身の発言に気を配りながら話すようになった。支援に携わることの大変さを実感し、知識や経験を積み重ねなければならないという気持ちになった。生徒たちと関わって話を聞くなかで、共感することもあったが、生徒の方から新たな視点や価値観などを学ぶことも多かった。寄り添うようにしていると心を開いてくれる生徒が多く、コミュニケーションは相互的なものであることについて気づいた。

### 茨城県地域教育臨床研究会

茨城県地域教育臨床研究会は、キャンパスエイドを送り出している茨城県内4大学、すなわち茨城大学、筑波大学、茨城キリスト教大学、常磐大学、キャンパスエイドが活動している県立フレックススクール5校、すなわち茨城県立鹿島灘高等学校、茨城県立結城第二高等学校、茨城県立茎崎高等学校、茨城県立高萩高等学校、茨城県立水戸南高等学校、および茨城県教育委員会高校教育課が参加して開催される。研究会では、キャンパスエイド活動に参加した学生による活動報告、キャンパスエイドを受け入れた高校の報告、および分科会行われ、キャンパスエイドに関わっている関係者が情報交換と課題の共有を行なっている。2023年度は第15回の開催だった。キャンパスエイドに参加した学生は、報告書を共同で作成し、研究会で1年間のキャンパスエイド活動を報告して質疑応答を行なった。またキャンパスエイドの分科会では、参加した他大学の学生と情報交換と討議を行なった（市村・倉田・佐田本・近森・野原・伊藤・久保田・田所・宮久保、2024）。資料として当日の発表で用いたプレゼンテーション資料を添付する。また、高校からの報告において、高校において、教職員でも、高校生でもない大学生のキャンパスエイドが、高校生の話し相手になり、エイド室が生徒の居場所の一つとなっていたことが報告された。



### 来年度に向けての課題

2023年度のキャンパスエイド活動は、これまでのキャンパスエイドとは異なり、新たにキャンパスエイド室が設置され、キャンパスエイドが、エイド室でキャンパスエイド同士によってエイド活動を行なった。生徒への対応については、このような形態でのキャンパスエイド活動の実践の蓄積がなく、キャンパスエイドは手探りの状態でエイド活動を進めていくことになった。活動の振り返りにあるように、学生は生徒への対応で困難なことや悩んだこともあったが、エイド室の環境整備を工夫したり、キャンパスエイドから生徒に声かけをするなどキャンパスエイド同士で話し合ったり工夫したりしてキャンパスエイド活動に取り組んでいた。この報告で記述したように、キャンパスエイド活動への高い動機づけを持った学生が参加し、さまざまな課題に直面しながらも生徒のためにどうしたらよいか考え生徒と関わっていたことが明らかになった。

今年度の活動を通して課題も浮かび上がってきた。エイド室に来室する生徒の固定化、キャンパスエイド活動とエイド室の生徒への周知、生徒への対応についてなどである。これら課題は、水戸南高校での研修会において高校と大学の間で共有された。さらに他のキャンパスエイド活動を行う高校でも同様の課題を認識していることが研究会を通して共通認識されている。これらの課題については、引き続き高校と連携して取り組んでいきたい。

### 引用文献

- 市村爽生・倉田真奈美・佐田本京香・近森優貴・野原麻美・伊藤昇太・久保田彩葉・田所詩織・宮久保皓規（2024）. 水戸南高校キャンパスエイド活動報告 第15回茨城県地域教育臨床研究会キャンパスエイド活動報告発表資料
- 茨城県教育庁高校教育課高校教育改革推進室（2015a）. 茨城県立水戸南高等学校と常磐大学人間科学部及び常磐大学大学院人間科学研究科との連携によるキャンパスエイド活動実施要項 茨城県教育庁高校教育課高校教育改革推進室
- 茨城県教育庁高校教育課高校教育改革推進室（2015b）.

茨城県立水戸南高等学校と常磐大学人間科学部及び常磐大学大学院人間科学研究科との連携によるキャンパスエイド活動実施要項の運用について 茨城県教育庁高校教育課高校教育改革推進室

### 謝辞

茨城県立水戸南高等学校校長平野泰博先生には、キャンパスエイド室の設置について、高校や教育委員会など各所と調整していただき、またキャンパスエイド活動に対してご指導と手厚い支援をいただきました。茨城県立水戸南高等学校吉澤佳代子先生には、高校のコーディネーターとしてキャンパスエイド活動について大学との連絡調整にあたってくださいました。記して謝意を表します。キャンパスエイドに参加した学生のみなさんに、真摯にキャンパスエイド活動に携わっていただいたことに対して謝意を表します。



資料

## 水戸南高校 キャンパスエイド活動報告

常磐大学心理学科 キャンパスエイド  
市村 爽生 倉田真奈美 佐田本京香  
近森 優貴 野原 麻美 伊藤 昇太  
久保田彩葉 田所 詩織 宮久保皓規

### キャンパスエイド活動について

**活動目的**

- ・水戸南高等学校のカウンセリング機能のよりいっそうの充実を図るため、学校カウンセリングの補助を行うキャンパスエイドの活動を実施する
- ・キャンパスエイドが生徒の話し相手として心理的支援を行うことで、さまざまな心理的課題や困難のある生徒の日々の学校生活を支える

**主な活動内容**

- ・傾聴 趣味や日常生活の話を交えながら悩みや愚痴を聴いた
- ・声かけ キャンパスエイドを認知してもらうため、あいさつをしてまわった
- ・観察 授業中や休み時間、校内を巡回して生徒の様子を観察した

### キャンパスエイド室の特徴

**場所**

HR教室と同じ棟  
進路指導室の隣の部屋

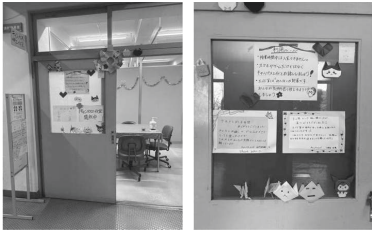
**エイド室の配置**

中央にメインテーブルを設置し、隅にも机を配置


**エイド室の環境整備**

入りやすさを目指し、折り紙やポップな案内でエイド室を彩った  
来室者が作成した折り紙も飾った

### キャンパスエイド室の特徴：出入り口



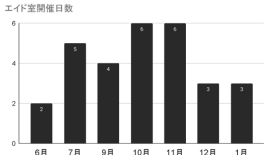
### キャンパスエイド室の特徴：室内の様子



### キャンパスエイド活動

活動期間 6月から1月の水・木・金曜日 10時から14時

実質人数 26人  
延べ人数 146人  
来室はしていないが  
声をかけた人数 27人



### キャンパスエイドの主な活動内容

- ・来室した生徒への対応
  - ・生徒との対話、カードゲーム、進路についての話
- ・校内見学
- ・エイド室の環境整備
  - ・テーブル、壁面、入口等の飾り付け、自己紹介カードの作成、掲示
  - ・図書室の本の設置
- ・校内巡回
  - ・廊下、清掃時、昼休みの教室等でのあいさつや言葉かけ
- ・キャンパスエイド室の周知活動

### キャンパスエイド活動の課題

**活動の課題**

- ・生徒との関わり方
  - ・アドバイスはしているのか
  - ・生徒との距離感、話す際の姿勢
- ・キャンパスエイド同士の交流
  - ・公式にはGoogle Classroomにキャンパスエイドのクラスを開いて情報共有
  - ・それ以外の共通のコミュニケーションツールの必要性
- ・来室生徒の固定化
- ・生徒への紹介不足





